

重松 ゆうこ 新聞

「食は命」を合言葉に！

vol.6

重松ゆうこファンクラブ

結果が出ない不妊治療 気付いた食の大切さ



みなさま、こんにちは。重松でございます。
今回は、私が経験した辛く悲しい出来事についてお話しします。

26歳で結婚する時、今は亡き舅に言われた言葉があります。それは、「子どもは産んでね。本家の農家の長男なので跡取りは欲しいから。」当時の私は、職場の健康診断にも全く異常が無く、特に病気もなかったもので、『それぐらい簡単簡単！』とお気楽に考えていましたが、結婚後子宝に恵まれないことを心配した実母が、病院を調べて一度検診を受けるようにと言いました。

私は言われるがままに、当時“最先端”の治療だった体外受精という治療を受け、その結果3度の流産を経験しました。

3回目の流産の時、お医者さんから「今から“習慣流産”に病名が変わります」と言われました。連続3回流産すると習慣流産(不育症)というそうです。『最先端の治療なのに…』と思ったことは言うまでもありませんでした。

当時“最先端”治療の体外受精はご存じのように高額医療でした。一度、お医者さんに「失敗したら返金はないのですか？」と思わず聞いてしまった事もありました。お医者さんにそんな質問するなんて、重松らしいと友人たちからは大笑いされましたが、私にとっては素朴な疑問でした。不妊治療だけでなく、色々な病気の最後には高額医療を薦められます。そして、高額なお金は払ったけど、残念な結果になったという事例は数多く聞きます。

病名が変わるとお医者さんに言われた時、『病名変えたら治るんかい！言われた通りに治療したやん！！』って言いたかったですが、実際にはそんな元気もなく、すぐく落ち込んでいました。お医者さんの言う通りでも結果が出ないこともあるんだ…、という事にここで初めて気が付きました。

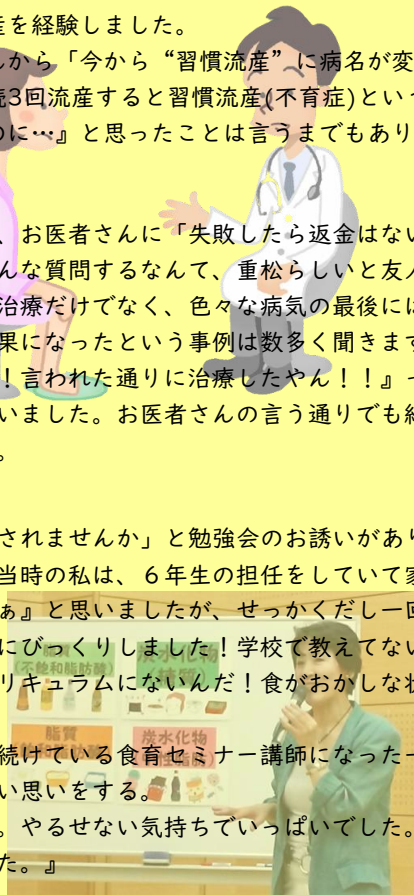
三度の流産を経験し悶々としてた時、ある主婦の方から「食の勉強をされませんか」と勉強会のお誘いがありました。この方は、食を変えてお産が楽になったと言われていました。当時の私は、6年生の担任をしていて家庭科も自分で授業をしていました。『家庭科で栄養の話もしてるけどなあ』と思いましたが、せっかくだし一回ぐらいは行ってみようという感じで参加しました。そこでのお話の内容にびっくりしました！学校で教えてないことだらけでした。「食は命」という言葉すら教えていない。なぜ、カリキュラムにないんだ！食がおかしな状態になっていることも、その時に初めて気が付きました。

『この事を少しでも多くの人に伝えなければ…』という思いが、現在も続けている食育セミナー講師になった一番の動機です。知識がなければ予防も出来ない。結果、病気を作って辛い思いをする。

私の不妊の原因の一つも食でした。気付いた時、本当に悔しかったです。やるせない気持ちでいっぱいでした。

『教えてくれれば、ちゃんと注意したのに…、もっと早くに知りたかった。』

私は、その時初めて無知は怖いと思いました。



次号に続きます。

